8月5日水曜日)「マリヤによる賛歌」

【新改訳 2017】

ルカ 1・46-55

「マリヤは言った。『わがたましいは主をあがめ、わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。・・・・どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。』」(46-48節)

これは「マリヤの賛歌」として知られている箇所の初めの部分ですが、ぜひ全体を読んでください。

この美しい、しかも霊的印象の強い賛歌は、なんど読んでも 私たちのたましいに祝福を与えてくれます。ここには、マリヤ の人柄もにじみ出ており、その清純な信仰、確かな神知識が、 謙虚さの中でも力強い証しの香りを放っています。

内容も詩的表現も、旧約ハンナの祈り(Iサムエル2・1-10) や詩篇の祈りと似ています。それだけ、マリヤは旧約聖書のことをよく知っていたからでしょうか。さらに加えられていること ばは、聖霊に満たされた結果のゆえであったことを物語っています。単純、謙虚、従順な信仰で御霊の祝福にあずからせて いただきたいものです。

~祈り~

主よ。マリヤのように、素直に、単純に、みことばを喜び、神を ほめたたえることができる者としてください。あなたが、私の ような者にも目を留められたことを証しできますように。

【学びのために】

似ている詩篇は、34•2-3、35•9、98•1、103•17ほか。この賛歌は「あがめる」を意味するラテン語から「マグニフィカート」と呼ばれます。